

# 事業報告

## <研修名>

外部人材を活用した地域プログラム開発事業 「県によるプログラム提示②」

## <開催日時>

令和元年12月8日(土) 13:00~16:00

## <参加人数>

各市町村からの参加者：15名(7市町村) / 体験活動に参加した小学生：21名

## <研修趣旨>

地域学校協働活動を推進し、地域における子どもの学びの充実を図るため、民間企業・団体等を中心とした、多様な経験や技能をもつ外部団体を活用した、特色・魅力のある教育プログラムの開発・企画・提示や情報の提供を行う。

「おおいたを知る・おおいたを学ぶ・おおいたを体験する」ことのできる子ども向けの各種体験プログラムを外部団体と連携して開発・実施し、その様子を市町村「協育ネットワーク関係者が参観することをおして、市町村へのプログラムの紹介・普及を行うとともに、外部団体と市町村との協議の場を設定することで、相互の協力体制構築の支援を行う。

## <研修内容>

【第1部】 「ふるさと再発見！おおいたの『タカラモノ』体験 Part2」 プログラム見学

\*\*実演団体\*\*

- おおいたの「ことば」：一般社団法人大分学研究会
- おおいたから「宇宙へ」：関崎海星館
- おおいたの「魚たち」：大分県農林水産部漁業管理課

子どもたちは、おおいたの特色や魅力を学ぶプログラムを2つ体験しました。

「ことば」は、日頃使っている大分弁について、クイズや連想ゲーム等をしながら学びました。「宇宙」は、宇宙産業に携わる大分県の企業について学び、大分県版の星座早見盤を作成しました。「魚」は、寿司ネタやかぼすブリの重さ当てクイズをしたり、タッチプールで魚を触ったり、かぼすブリを食べたりしました。

【第2部】 実演団体との協議・意見交換

県立図書館からの事業説明の後、各団体から、実演したプログラムの説明や他の実演可能なプログラムの紹介、今後市町村で実施する際の手続き等について話がありました。終了後は、各団体と市町村担当者との間で、個別に相談したり意見交換をしたりする様子が見られました

## <当日の様子(写真)>

【開会行事】



【第1部】ふるさと再発見！おおいたの『タカラモノ』体験 Part2  
▼おおいたの「ことば」 一般社団法人大分県研究会



▼おおいたから「宇宙へ」 一関崎海星館一



▼おおいたの「魚たち」 一大分県農林水産部漁業管理課一





### <参加者感想>

#### 【市町村参加者】

- とても楽しく参加させていただいた。市の講座にもぜひ来ていただきたいと思った。
- 「ことば」、とても楽しいお話が聞けた。「大分弁のゲーム」ができそうだ。「宇宙」、子どもたちが飽きない、大人も楽しめた授業で、一度海星館に行ってみたいと思った。「魚」、子どもたちは好きだと思う。魚のゲーム、よかった。お話も楽しかった。
- 星座盤の作り方やかぼすプリの試食もできよかった。「なしか」のことば体験、どういう事するのかと思ったが、吉田さんの「なしか」もよかった。方言の大切さを確認できた。
- 私は山口県出身なので、大分弁が新鮮で楽しかった。

#### 【小学生】

- 私は大分弁が好きだから、それが学べてよかった。
- 大分弁がよくわかった。
- 星はきれいだし、見るのが楽しいから、家で調べたい。
- 生き物に触れ合えて楽しかった。
- 何の魚かわかってよかった。
- おじいちゃんちで年末かぼすプリをお母さんがさばいて食べてるけど、6kgもあると聞いてびっくりした。
- 知らなかったことを知ることができてよかった。
- 通常は聞けない、触れないようなことができたのでとても楽しかった。
- 知らない大分の魅力を知ることができてよかった。

#### 【保護者】

- 興味深く話を聞いていた。触れて、作って盛りだくさんで充実した時間を過ごせた。楽しく勉強できてよかった。
- 「家の中で大分弁を話すか？」という質問に皆答えられなくて、子どもは、日頃使っているのが「大分弁」と意識してないんだろうな、と思った。
- 魚に少しでも興味をもてたと思う。店に行って探してみたり、お寿司を見て考えたりしようと思う。
- 初めて会った子たちと仲良くなり、大分や別府について会話がはずんでいた。現在「うちのトコでは」というマンガにハマり、大分の良さについてわかり始めているところだが、今日の2つの講座を受けて、より大分への興味・理解が深まったと思う。